

7. 教育センター

教育センターは、本学医学・看護学の卒前ならびに卒後教育の支援組織として、教育を推進する。これらの活動を通して、東京慈恵会医科大学の発展に寄与し、国民のための医療者教育の向上に貢献することを目的とする。卒前教育、卒後教育、生涯学習の連続性の中で、大学、附属病院を横断する教育活動について、教育センターは支援する。教育センター規程より、教育センター長、部門組織、担当業務は次の通り。

教育センター長 中村 真理子 教授

部門組織

- (1) 医師キャリアサポート部門
 - ① 医学教育研究室
 - ② 教育開発室
- (2) 看護キャリアサポート部門
- (3) シミュレーション教育部門
- (4) 地域医療支援部門
- (5) 教育IR部門
- (6) アドミッション部門

教育センター業務

- (1) 医学科教育の支援業務に関すること
- (2) 看護学科教育の支援業務に関すること
- (3) 看護専門学校教育の支援業務に関すること
- (4) 大学院教育の支援業務に関すること
- (5) 卒後教育の支援業務に関すること
- (6) 地域医療者教育に関すること
- (7) 教育関連補助金獲得および教育補助金事業の管理・運営に関すること
- (8) シミュレーション教育施設の管理運営に関すること
- (9) 教育情報基盤支援業務（eラーニングを含む）に関すること
- (10) 学校法人主催公開講座の企画、調整、実施支援に関すること
- (11) 教育IRに関すること
- (12) その他、本学教育に関すること

事業報告

1) 教育の公的補助金にかかる事業

- (1) 平成29年度大学教育再生戦略推進費「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」
筑波大学を代表校とし本学が連携13大学のひとつとして、事業「関東がん専門医療人養成拠点」を申請し、採択を受けた。本学の事業責任者は矢野真吾教授（腫瘍・血液内科）が担当。事業期間は2018年度～2022年度。
- (2) 平成30年度課題解決型高度医療人材養成プログラム「精神科多職種連携治療・ケアを担う人材養成」
筑波大学を代表校とし茨城県立医療大学・東京慈恵会医科大学が連携大学として、事業「精神科多職種連携治療・ケアを担う人材養成」を申請し、採択を受けた。本学の事業責任者は繁田雅弘教授（精神医学講座）が担当する。事業期間は2019年度～2023年度。
- (3) 感染症医療人材養成事業補助金事業
令和2年度第三期補正予算文部科学省感染症医療人材養成事業に選定され事業を実施した。
事業名：東京慈恵会医科大学 感染症医療人材養成事業
事業推進責任者：救急医学講座 武田 聡 教授

補助期間：2021年3月～2022年3月31日

- (4) 経常費補助金私立大学改革総合支援事業タイプ1
改革総合支援事業タイプ1「Society5.0の実用に向けた特色ある教育の展開」の調査票の提出を行い、選定された。
- (5) 経常費補助金一般補助「情報の公表」
教育情報の公表について、関係部署からデータ提供の協力を得て、令和2年9月に本学ホームページに掲載し、教育情報の公表を行った。
- (6) 経常費補助金特別補助「ICT活用推進事業」
令和3年度文部科学省ICT活用推進事業「国領キャンパス無線LAN等整備事業」を申請し、選定された。事業期間は令和3年度の単年度。
- (7) ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業
令和3年度補正予算文部科学省ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業を申請し、選定された。
事業名：東京慈恵会医科大学ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業
事業推進責任者：教育センター・センター長 中村 真理子 教授
補助期間：2022年3月～2023年3月31日

2) 教育IR部門

学生の学修成果を指標として検証し、本学の医学教育の恒常的な改善を図るための活動を目的とする教育プログラム評価委員会へ卒業時アンケート、卒業生臨床実習に関する総括的アンケート等の資料提供を行った。

- ・2022年度にJACME（日本医学教育評価機構）による医学教育分野別評価の2巡目を受審することになり、卒業生の実績を把握する目的として、レジデントへ自己評価に関するアンケートを実施した。
- ・JACME(日本医学教育評価機構)への年次報告書作成に基づく根拠資料の情報収集を行った。
- ・学習成果の可視化情報等の一元化を図るため、データベースの基本仕様を作成した。

3) 内部質保証の推進

学校法人慈恵大学内部質保証推進委員会（委員長：柳澤浩之副学長）を主体に、内部質保証に関する方針、概念図を策定し、ホームページに公開した。

4) 地域医療支援教育プログラム

地域医療を行っている医師を対象に「プライマリ・ケアのための臨床研究者育成プログラム」を松島 雅人教授（臨床疫学研究部・教育センター）を責任者として実施した。

2019年度生・受講生9名、2020年度生・受講5名、2021年度生・受講11名を受講生として、講義（eラーニング）を6コース、ワークショップを8回実施した。

5) 看護学教育プログラム

看護キャリアサポート部門の研修担当者（奈良京子）と臨床4機関の研修担当者の協力のもと、以下の教育プログラムを実施した。

- (1) エデュケーションナース研修
2021年7月31日（土）～11月19日（金）の内20日間、受講者数：40名
- (2) 基礎教育と臨床の交流研修
企画したが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止した。
- (3) E L N E C - J コアカリキュラム看護師教育プログラム
企画したが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止した。
- (4) 認定看護管理者教育課程 ファーストレベル（2019年度開講）
開催期間：2021年10月2日（土）～12月12日（日）の内20日間
受講者数：25名（学内11名、学外14名）

- (5) その他
 新型コロナ感染症拡大のため、対面での教育が不可能な時期に、慈恵4病院の臨床看護師及び教職員、学生の教育にe-ラーニング・Moodleの活用を推進し、研修・授業などの開催を支援した。
- ・Moodleコンテンツ作成：新橋23件、葛飾8件、第三6件、柏20件、4機関共通6件、計63件
 - ・ナーシングスキル作成支援：4機関共通4件
 - ・VR/遠隔システムを活用した授業設計および運営支援活：看護学科2科目、看護専門学校1科目、計3件
- 6) シミュレーション教育支援
 シミュレーション教育施設委員会（委員長：中村真理子教授）が中心となり、シミュレータ機器の選定、購入などの機器整備を行い各機関のシミュレーション教育施設の充実を図るとともに、シミュレーション教育施設の管理運営を行った。
- 各機関の利用状況は、西新橋校663件、国領校161件、葛飾医療センター665件、柏病院88件、合計1,557件の利用であった。
- 7) ICT活用教育支援
- (1) eラーニング
 卒前・卒後教育教材の作成とeラーニングのサーバ等のシステムを管理し、利用支援を行うとともに、教材作成を支援した。eラーニングの実績は年間1,077コース14,238回であった。内訳は次の通り。
- ・医学科学生 348コース3,247回
 （3年次症候学演習、4年次基本的臨床技能実習など）
 - ・看護学科学生 197コース、3,536回
 （2年次情報科学、3・4年次在宅看護学実習など）
 - ・看護専門学校学生 114コース 2,033回（母性看護学概論、領域別実習）
 - ・慈恵第三看護専門学校学生 97コース 2,329回
 （看護理論と看護の歴史、老年看護学実習Iなど）
 - ・慈恵柏看護専門学校 96コース 1,906回
 （人体の構造と機能、看護英語など）
 - ・大学院医学系専攻 14コース、94回（医学研究法概論、医の倫理など）
 - ・大学院看護学専攻 44コース、160回（疫学臨床研究、生物統計学など）
 - ・卒後教育（研修医、看護師、地域医療者など） 167コース、933回
 （鏡視下手術トレーニングなど）
- (2) コンピュータ試験の支援
 医学科5年生 「総括試験」、医学科2年生 「総合試験」、など医学科で9回のコンピュータ試験実施の支援を行った。
- (3) クリッカーを活用した授業等の支援
 クリッカーの運用・管理、利用者への支援を行った。学生の授業、教職員の研修会で計2回利用された。
- (4) eポートフォリオ
 ・医学科4－6年生の全科臨床実習、診療参加型臨床実習においてeポートフォリオの実施を支援した。
 ・看護学科全学年にeポートフォリオの実施を支援した。
- (5) エルゼビアeReview eラーニング
 医学科学生用のエルゼビアeReview eラーニングを全学年で利用した。
- 8) テレビ会議システムの利用支援
 テレビ会議システム運営委員会（委員長：草刈洋一郎教授）が主体となり、大学の教育・

研究や大学運営をテーマとした4機関の会議について、円滑に実施することを目的に次の活動を行った。

(1) 4機関テレビ会議システム

4機関を接続したテレビ会議システムの使用を支援し、年間10回のテレビ会議システムの利用支援を行った。利用内容は4病院合同セーフティーマネージメント、学祖高木兼寛没後100年記念講演会などであった。

(2) Zoomミーティング

Zoomミーティングの運用管理・支援を行った。年間のユーザ登録数は669件・年間利用数は10,948回であった。内訳は次の通り。

- ・教育・研究（学生授業等） 4,226回
- ・大学（委員会・会議等） 2,326回
- ・附属病院（委員会・会議等） 1,681回
- ・法人（委員会・会議等） 356回
- ・各部署の会議等 2,359回

9) 市民ボランティア「あけぼの会」の活動

平成24年度より、学生、医師、看護師等への本学らしい医療者教育の拡充を目的に、一般市民ボランティア「あけぼの会」を組織し活動を開始した。この組織は、現在、医学科・看護学科の授業（演習、実習）で実践している市民参加型コミュニケーション教育や、医療面接教育への支援を主としている。令和3年3月31日現在の会員数は30名で、2021年度の活動は次の通りである。

(1) 例会（Zoom）

- 第1回例会 2021年5月15日（土）10：00～11：45
- 第2回例会 2021年6月19日（土）10：00～11：30
- 第3回例会 2021年10月23日（土）10：30～12：00
- 第4回例会 2022年3月12日（土）10：00～11：00

(2) 授業への参加

- 医療総論演習 医学科1,2年 6月22日（火）13：00～16：10
- 医学総論Ⅱ演習 医学科 2年 7月7日（水）13：00～16：10
- 医学総論Ⅲ演習 医学科 3年 10月29日（金）13：00～14：30
- 医学総論Ⅲ演習 医学科 3年 11月5日（金）13：00～16：10

10) 公開講座

(1) 大学主催公開講座

2021年度大学主催の公開講座においては新型コロナウイルス covid19感染拡大予防のため中止となっている。NHKと共催しているみんなの健康教室は6回開催した。

11) アウトリーチ活動

アウトリーチ活動推進委員会（委員長：南沢 享教授）が主体となり、大学の社会貢献の一環として、本学の教育研究成果について小中高校への還元することを目的に次の活動を行った。

(1) 港区教育委員会との連携

御成門小学校30周年記念式典に参加した。

(2) 医療オンラインセミナー

読売新聞社主催「高校生向け医療オンラインセミナー」を10月24日（日）に腎臓・高血圧内科の横尾 隆教授が行った。

(3) 高大接続

芝 学 園 高 校：高大連携に関する協定書を締結した。

豊島岡女子学園高校：高大連携に関する協定書を締結した。